

播磨まちかどニュース

With いなみ野学園

瓦版



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 124

いなみ野万葉の森 ～「いなみ野万葉の森の会」活動～



◆配信日：令和8年6月1日◆



今回、訪れました稲美町の「万葉の森」を紹介したいと思います。令和8年5月6日(水)に「万葉の森公園」を訪ねてみました。ここでは、ちょうど元号が「令和」に変わった折に収録にきたところで、万葉集から取られた「令和」の



いなみ野万葉の森の会
会長 鷺野 隆夫

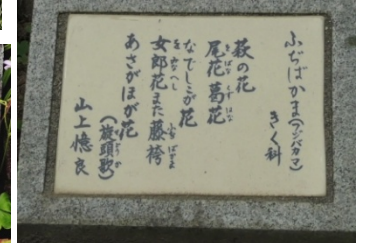
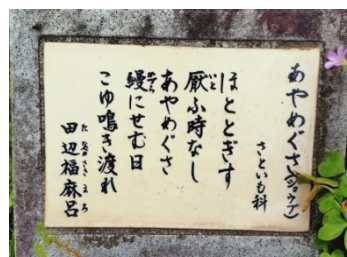
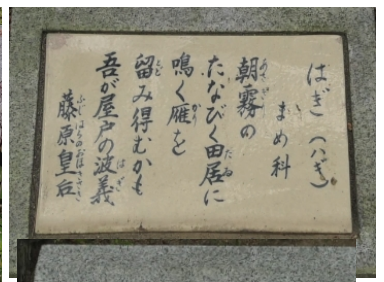
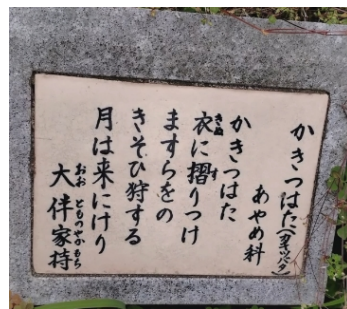
名が石碑に刻まれています。

今回、ここ「いなみ野万葉の森の会」会長の鷺野隆夫さんから詳しくお話を伺いました。その様子をお伝えしまし

よう。

園内にある東屋で鷺野さんからお話をお聴きしました。

鷺野さん：「3000万円をかけて園内の改修修復工事を行い、今の施設になりました。短歌や俳句、感想文など「投稿ポスト」に入れてもらおうと、それを編集して『万葉だより』に掲載してきています。



園内には、万葉集の歌碑や陶板が据えられています。万葉集に1500首もの花の和歌があり、草花も150首以上詠まれているそうです。38年前にいなみ野学園の陶芸学科のみなさんによって、万葉歌を陶板で作ってら

いました。

元号が「令和」に変わった年には、マスコミの方々も大勢来られ、新聞紙上にも大きく取り上げられました。記念するイベントもあって、それを見に来られる人も大勢でした。」

MC：「緑に囲まれて静かな中、水の音も聞けて心穏やかになりますね。こんなキレイな園内ですが、「池ざらえ」をされていると聞きますが？」



「池ざらえ作業」の様子

鷲野さん：「ハイ、準備に3日間、作業に半日かけて、池を綺麗にしています。睡蓮やアサゲなどが育つよう管理しています。また植栽の補充もやっています。普段はシルバーの方に公園管理をしてもらっています。

四季折々の草花に配慮しながら、その時期ごとにキレイに咲いてくれるように取り組んでいます。冬、しだれ梅に雪が積もり、東屋との風景は趣きがあって、とてもいい眺めですよ。」

MC：「お話にもありましたが、「万葉の森」には、万葉集の和歌が石碑に、また陶板にも刻まれ、そこかしこに設置されています。その陶板を作ったのが「いなみ野学園」の陶芸学科のみなさんによるものと聞いて、同じ学園の卒業生として、とても嬉しく思いました。また、東屋の後ろには大きな池があって川も流れています。川は加古川で、池に浮かぶ島は淡路島、その周囲が瀬戸内海と、借景されているとのこと。こんなに落ち着いた静かな雰囲気の中をじっくりと万葉集の和歌を詠みながら散策

するのには最適ですね。癒される気がします。」



憩いの館

東屋でのお話の後には、続いて園内を散策しながら説明していただきました。万葉集にちなむ和歌が刻まれた碑や陶板をじっくり詠みながら施設内を見学しました。最後に、和室のある「憩いの館」でお茶をいただき、園内を眺めながらのお茶はホッとするとひとときとなりました。

以前、収録にきた「令和」元年から早8年。改めて元号が変わった時が思い出され、月日の経つ早さにビックリしました。そして、ずっと管理・維持されてこられた会のみなさんに、心から感謝したい気持ちになりました。

「万葉の森」を永年に亘り維持・管理されてこられた「いなみ野万葉の森の会」のみなさんのご努力と献身に敬意を表したい気持ちです。本当にご苦労様ですと言いたいですね。

そこでひとこと、「水の音 鳥の声を聴きながら 万葉歌を味わい 口ずさむ」



(ナレーション 大前 小夜子)



大前 小夜子

思い出の修学旅行 ～青春再び、心ふれあう伊勢・鳥羽の旅～



◆配信日：令和8年6月16日◆

今回は、5月初めに行われました、いなみ野学園大学院2年生の修学旅行の様子をお伝えしましょう。

大学院20期生（2年生）は、令和8年5月11日（月）～12日（火）の2日間、三重県伊勢・鳥羽への修学旅行を行いました。伊勢では伊勢神宮を参拝、船で伊勢湾を巡航し、鳥羽では二見輿玉（ふたみ・こしたま）神社（夫婦岩）を訪れました。

2日間、順次、紹介していきましょう。1日目の11日（月）、8:00 学園を出発。両日ともに天気に恵まれ、快適に各高速道路を進んでいきました。バス内では早速、楽しい会話があちこちで弾んで、みなさんのウキウキ気分が楽しい様子が伝わってきました。

お昼 12:00 に食事場所である松阪へ到着。グルメの街：松阪で贅沢な「松阪牛御膳」に舌鼓を打ち、大満足の笑顔が伺えました。



二見輿玉神社(夫婦岩)

食後は、最初の目的地、二見輿玉（ふたみ・こしたま）神社へ。こちらはパワースポットの「天の岩戸」や大しめ縄で結ばれた「夫婦岩」で有名な景勝地です。

続いては、伊勢神宮の「下宮（げくう）」参拝へ。杉の巨木に囲まれた静かで厳かな境内、足下は砂利道が敷き詰められ、一步一步

進んで行きました。平日にも関わらず、大勢の参拝客が次々と訪れ、賑わいを見せていました。



『鳥羽シーサイドホテル』からの伊勢湾

1日目の目的地訪問を終え、その日の宿泊所「鳥羽シーサイドホテル」へ向かいました。16:00 頃、ホテルに到着。大きなホテルでエントランスの上がったところが7階。眼下に伊勢湾が眺められる大パノラマでした。



クラス親睦会

いよいよお待ちかねの楽しい食事会・演芸会が始まりました。豪華な食事と併せて、各班や各個人の「出し物」発表が行われまし

た。場が最高潮に盛り上がりました。

2日目の12日(火)、最初は、遊覧船での鳥羽湾巡りです。まるで竜宮城を思わせるユニークな船に乗船し、穏やかな湾内を気持ちのいい風に吹かれながら、クルージングを楽しみました。途中途中で案内アナウンスの説明を聞きながら、ほぼ1時間巡りました。



伊勢神宮:内宮(皇大神宮)



五十鈴川

昼食後、旅のハイライト、伊勢神宮の「内宮(ないくう)」を参拝。途中、

五十鈴(いすず)川で手を清め、ここも大勢の参拝客のみなさんと一緒に「内宮」へ、参拝しました。また、入り口鳥居横の「おかげ横丁」は、ごった返すほどの活気にあふれ賑わっていました。

2日間、全ての行事を終え、一路、学園まで……。車中ではビンゴゲームで盛り上がり、「青春 song」をカラオケで歌い合い、周りの友と語り合い、とても楽しい車中でした。そして、予定通りに無事、学園に帰着しました。



最後に、今回の企画を担った学級代表の二人に感想を聞きました。

岩瀬委員長「40年前、

父・姉と三人で冬に訪れたことを懐かしく思い出しました。謡曲「阿漕(あこぎ)」を披露しましたが、阿漕という漁師が禁漁区に入って魚を釣った。それは病気の母のために。ただ、禁漁区ということで、死後苦しみに襲われると言う内容の謡曲です。今回の旅行は思い出に残るものとなりました。旅行委員長の新田さん、副委員長の水沼さん、お二人にはお世話になりました。」



榎田副委員長

榎田副委員長「学園の修学旅行は、これで3回目です。これまでは企画に乗っかるだけでした。今回は準備に回る立場となって、大

変な思いで企画し準備をしてくれていたのだなあと、感謝しています。また、仕事で車椅子を押すことをしていました。今回、後ろから押す電動車いすを操作して、その操作の大変さを実感しました。砂利道を進むにも難しく、また前の人に衝突しそうになったりして。それを仲間が順番に交代しながら押していきました。貴重な体験となりました。」

天気に恵まれた2日間。友と訪れ、友と語り、友と共に大いに盛り上がった今回の修学旅行。何より院2年生の仲間としての絆が一気に深まった感じがしました。その強い団結力で、次は「修了レポート発表会」へと進みましょう。

そして、ひとこと「共に訪れ 語り合った
そこで深まった強い絆 これをパワーに さあ次へ」



(ナレーション 吉川 千代子)



【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html

◀編集・発行▶いなみ野学園 ビデオ制作委員会 (いなみ野学園大学院講座・研究生)

☎079-424-3342